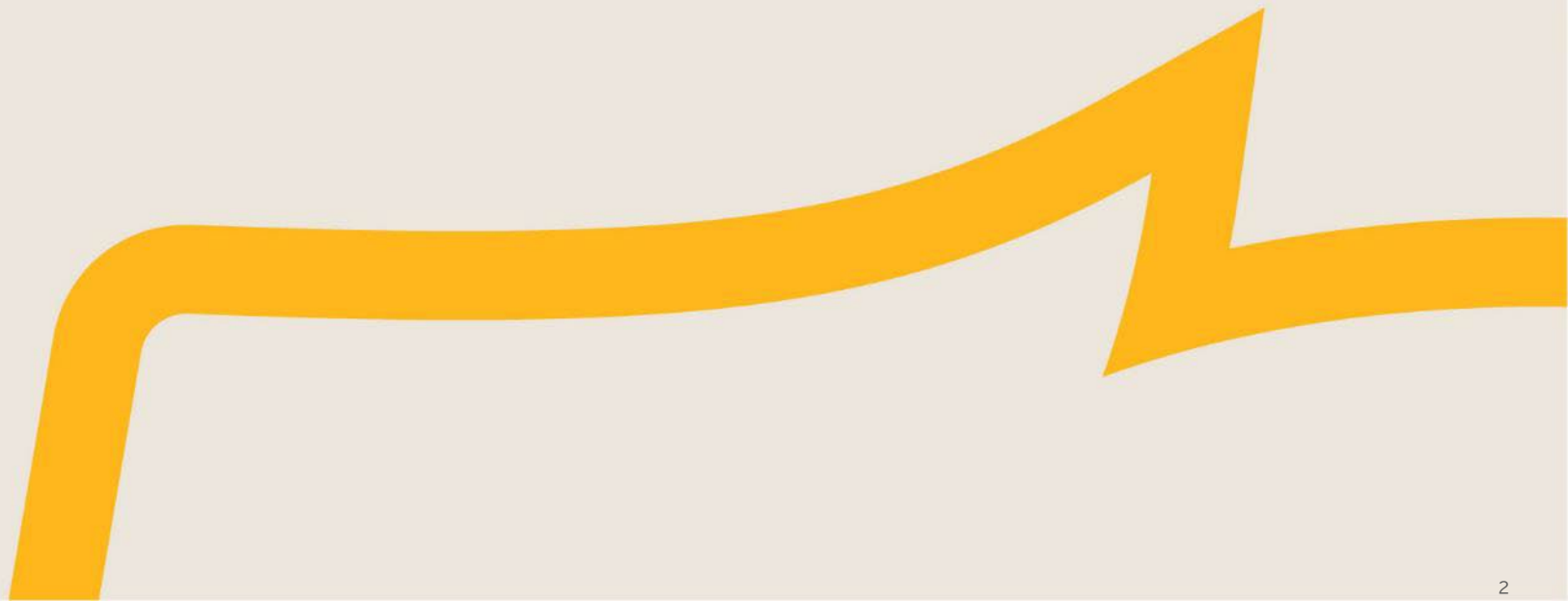


# 2026年3月期 第1四半期 決算短信補足資料

(注) 2025年3月期第3四半期において、持分法適用会社における企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第1四半期との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。



# 2026年3月期 第1四半期決算概況



# 2026年3月期第1四半期 サマリー

営業利益は、養殖事業や北米水産加工の大幅改善に加え、海外水産・食品、国内チルド事業の好調継続により約6%の増益。経常利益以下は、前期数値の修正(約21億円)の影響で減益も、年間計画に対して想定通りに進捗。

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減	増減率(%)
売上高	2,206 億円	2,254 億円	48 億円	2.2
営業利益	97 億円	102 億円	5 億円	5.7
経常利益	116 億円	102 億円	▲13 億円	▲11.7
四半期 純利益	73 億円	65 億円	▲8 億円	▲11.7

## <前期数値の遡及修正について>

持分法適用会社による買収に伴う負ののれん発生益の確定に伴い、前期の数値について遡及修正している。

	2025年3月期第1四半期		
	遡及前	遡及後	増減
売上高	2,206 億円	2,206 億円	0 億円
営業利益	97 億円	97 億円	0 億円
経常利益	95 億円	116 億円	21 億円
四半期 純利益	52 億円	73 億円	20 億円

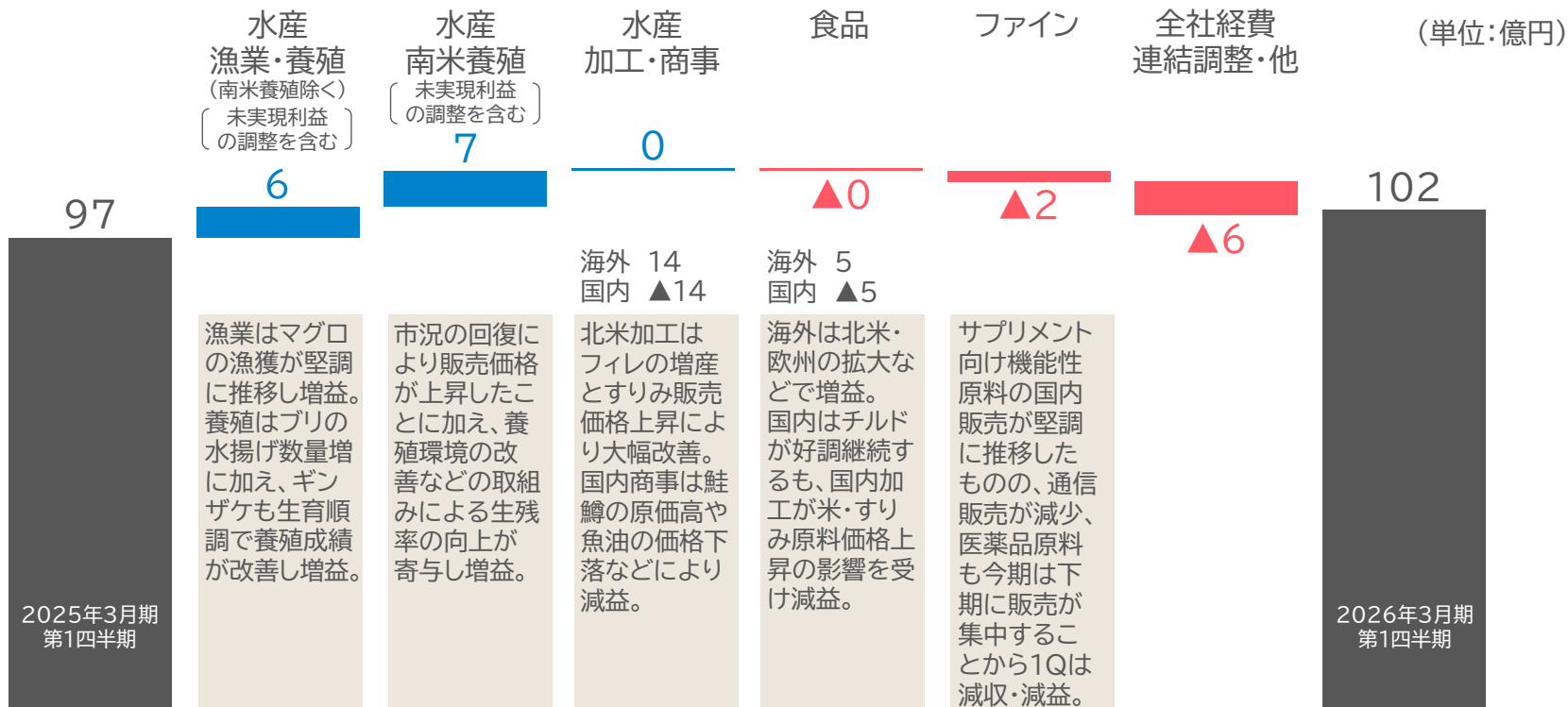
## 2026年3月期第1四半期 セグメント別概況

食品はコンビニエンスストア向けの販売が好調で増収。

(単位:億円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	2,206	2,254	48	2.2
水産事業	855	864	8	0.9
食品事業	1,226	1,287	60	5.0
ファインケミカル事業	35	31	▲4	▲12.6
物流事業	39	40	0	1.9
その他	48	31	▲16	▲34.4
営業利益	97	102	5	5.7
水産事業	20	31	11	56.6
食品事業	87	88	0	0.7
ファインケミカル事業	2	0	▲2	▲91.9
物流事業	6	5	▲0	▲14.3
その他	1	0	▲1	▲67.5
全社経費	▲21	▲23	▲1	8.6
経常利益	116	102	▲13	▲11.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	73	65	▲8	▲11.7

# 2026年3月期第1四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

漁撈・養殖・北米加工の改善により水産事業が大きく増益。  
食品事業は国内が米価で苦戦も、チルドと海外がカバーし前年同期並み。



## 2026年3月期第1四半期 連結貸借対照表(前期末比)

為替の影響で純資産が減少。

(単位:億円)

( )内の数字は前期末比増減					
流動資産	3,370	(+45)	流動負債	2,159	(▲102)
現金及び預金	136	(▲10)	支払手形及び買掛金	587	(+23)
受取手形及び売掛金	1,120	(+46)	短期借入金	1,064	(▲76)
棚卸資産(在庫)	1,937	(▲12)	未払費用	295	(+3)
固定資産	2,984	(▲38)	固定負債	1,395	(+167)
有形固定資産	1,796	(▲13)	長期借入金	1,133	(+175)
無形固定資産	162	(▲8)	純資産	2,800	(▲58)
投資その他の資産	1,025	(▲17)	自己資本	2,709	(▲61)
総資産	6,355	(+6)	自己資本比率		
			'25/3	43.6%	⇒ '25/6 42.6%

## 2026年3月期第1四半期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

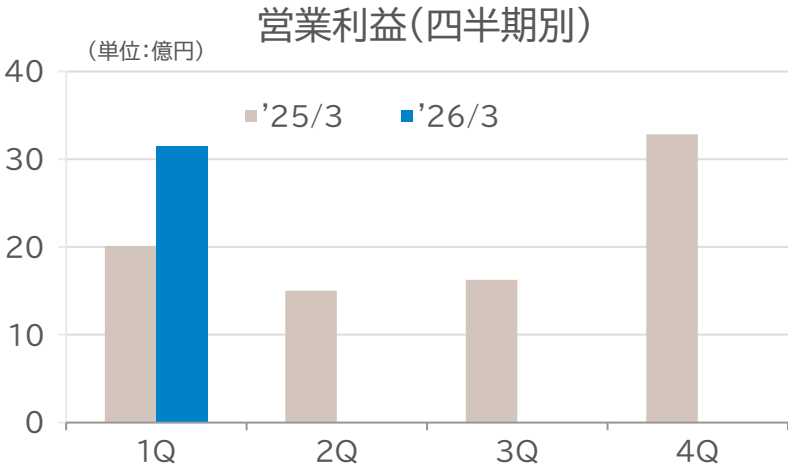
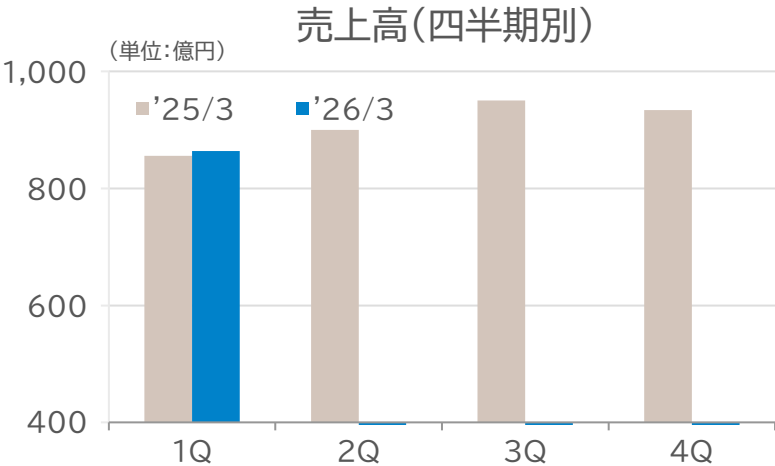
前年並みの営業キャッシュフローを確保。

(単位:億円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減
税金等調整前当期純利益	111	99	▲12
減価償却費(のれん償却含む)	60	63	3
運転資本	▲20	▲47	▲26
その他(法人税等の支払額、等)	▲126	▲87	37
営業CF	26	28	1
設備投資額(固定資産取得額)	▲67	▲91	▲24
その他	▲14	▲1	11
投資CF	▲80	▲93	▲13
借入金の増減額	138	117	▲20
その他	▲46	▲57	▲10
財務CF	91	59	▲31
現金期末残高	237	177	

2026年3月期第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

南米養殖・北米加工の業績が大きく改善したうえ、海外商事も堅調に推移し、国内商事の苦戦をカバー。

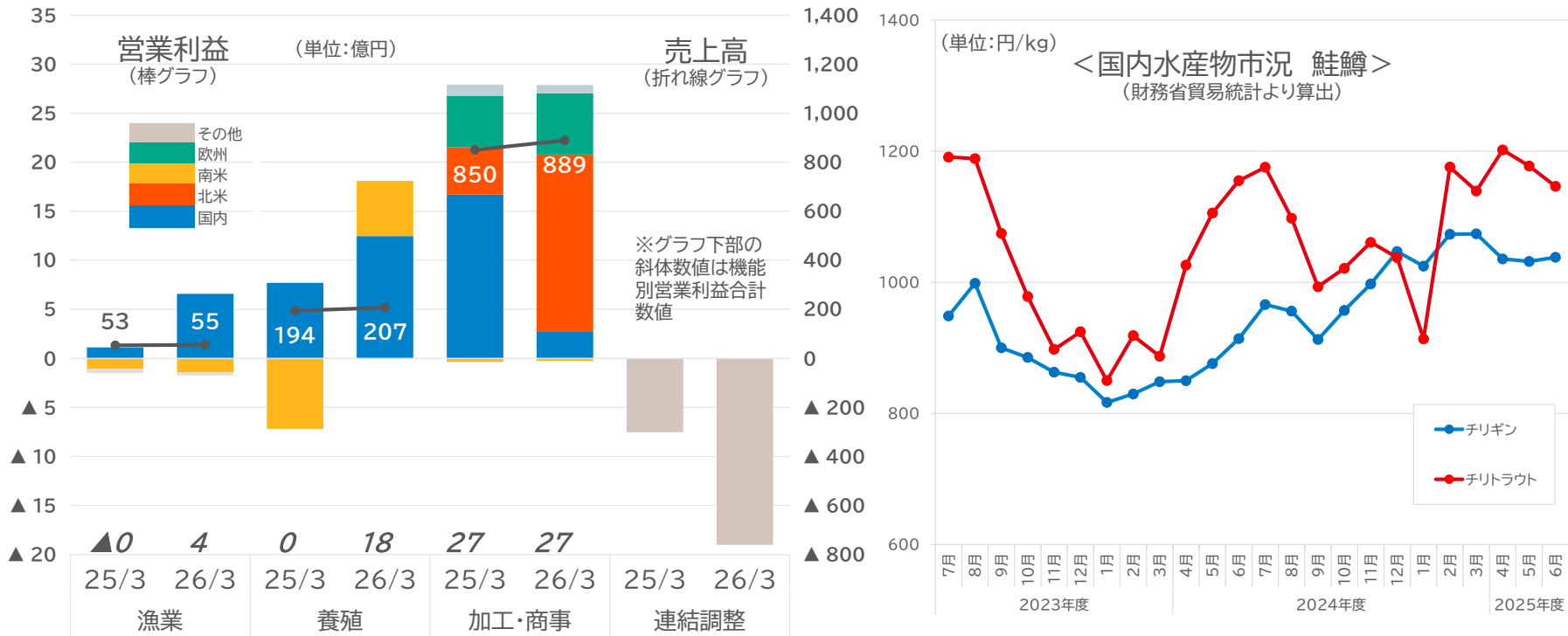
(単位:億円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	855	864	8	0.9
営業利益	20	31	11	56.6





2026年3月期第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

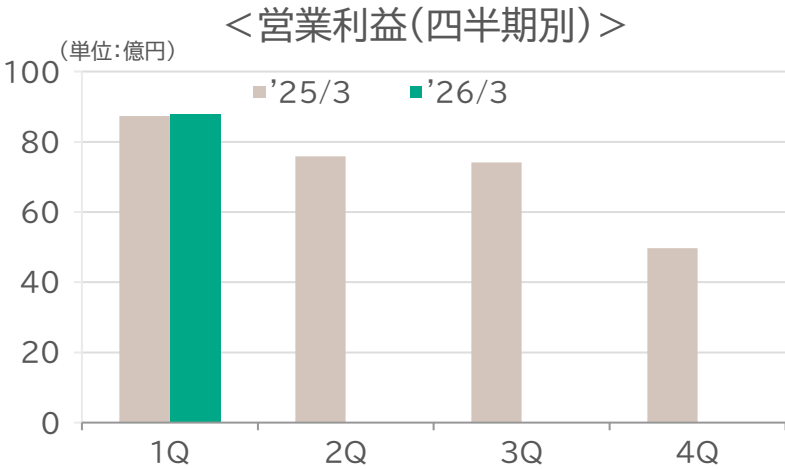
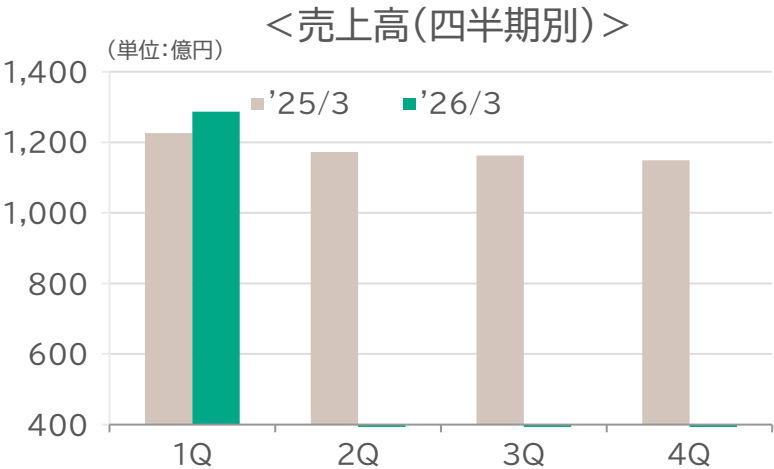
養殖は養殖成績が改善したことに加え、販売価格が上昇したこともあり増益。  
加工商事は北米加工のスタートが好調だったことにより、国内商事の苦戦を補った。



2026年3月期第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

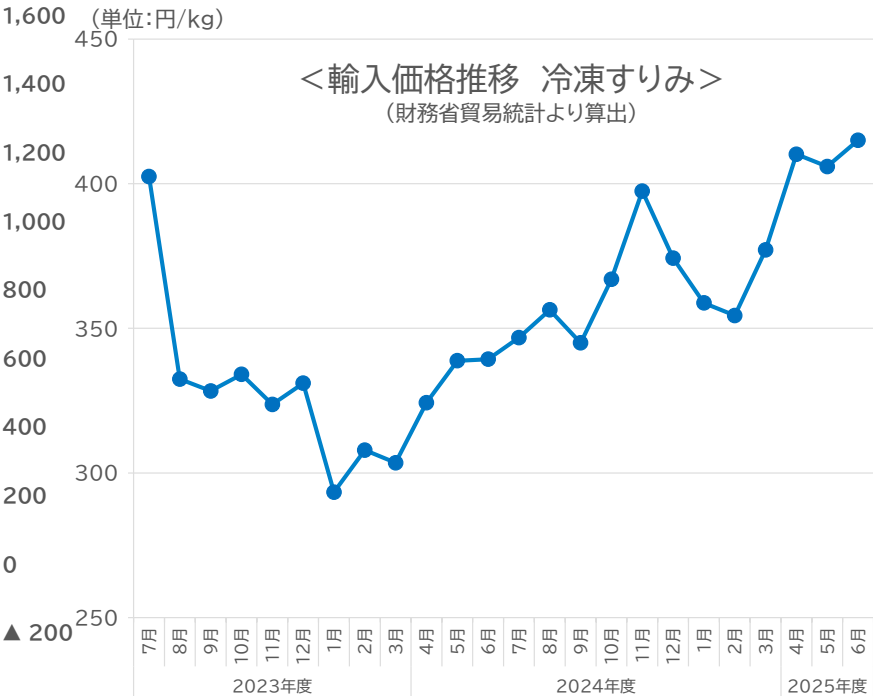
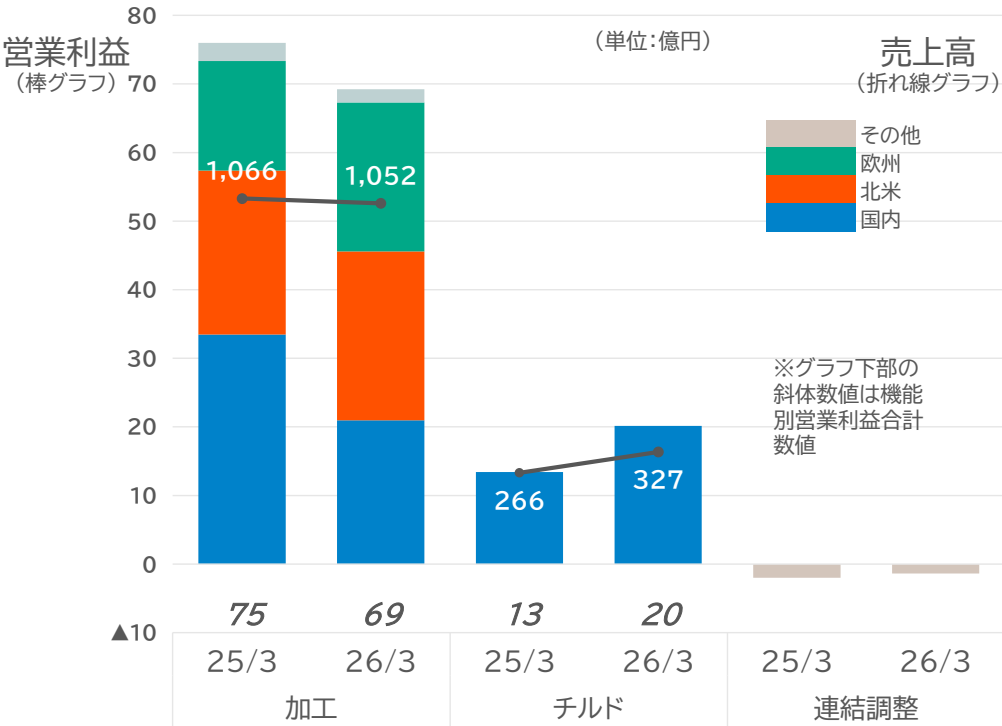
海外が堅調なうえCVSの販売促進効果もあり、米・すりみ原料価格上昇の影響を吸収。

(単位:億円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,226	1,287	60	5.0
営業利益	87	88	0	0.7



2026年3月期第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

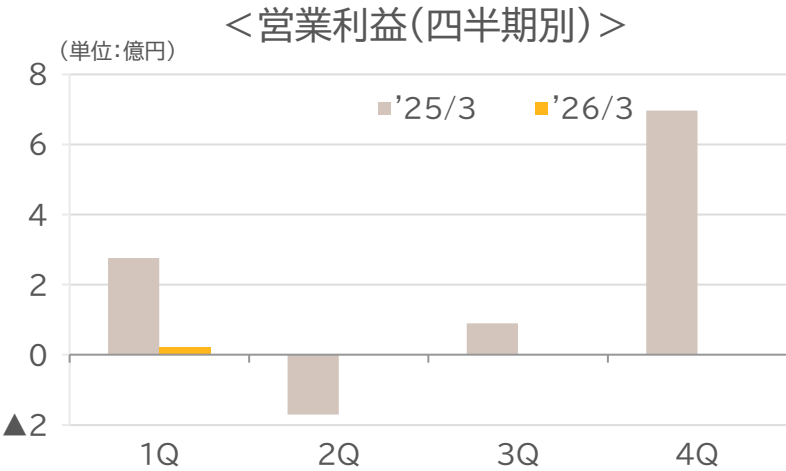
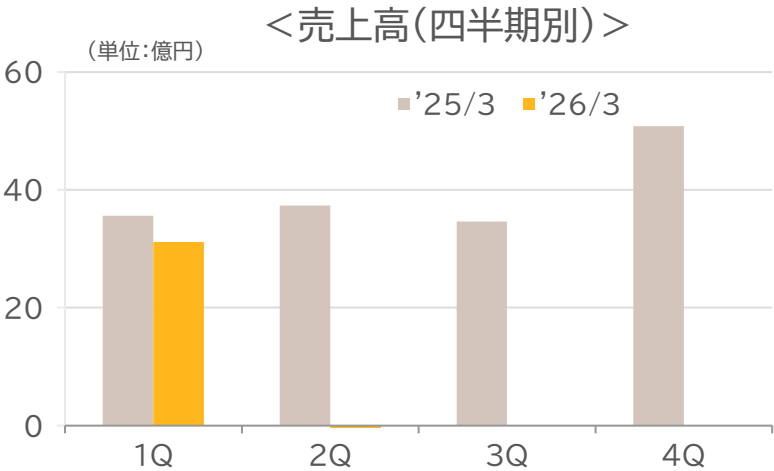
海外は北米でのシェア拡大・欧州での販売エリア拡大などで増益。  
国内はチルドはCVSの施策が好調で、米・すりみ原料価格上昇の影響を打ち消す。



2026年3月期第1四半期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

今期の医薬品原料の販売は下期に集中する計画であり、第1四半期は減収・減益。

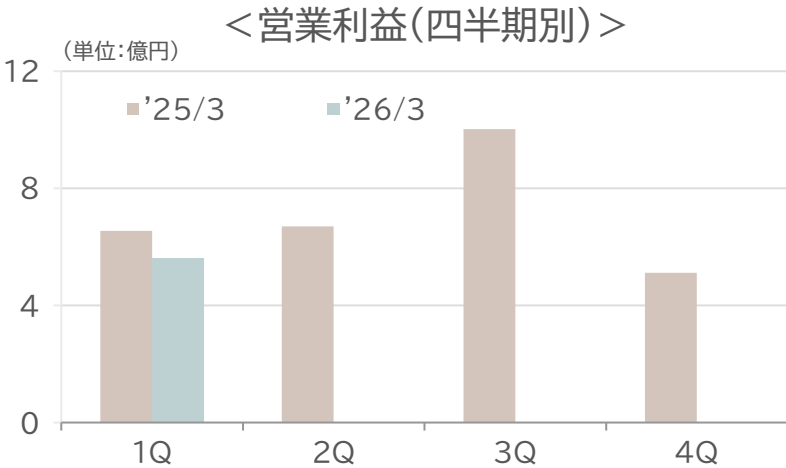
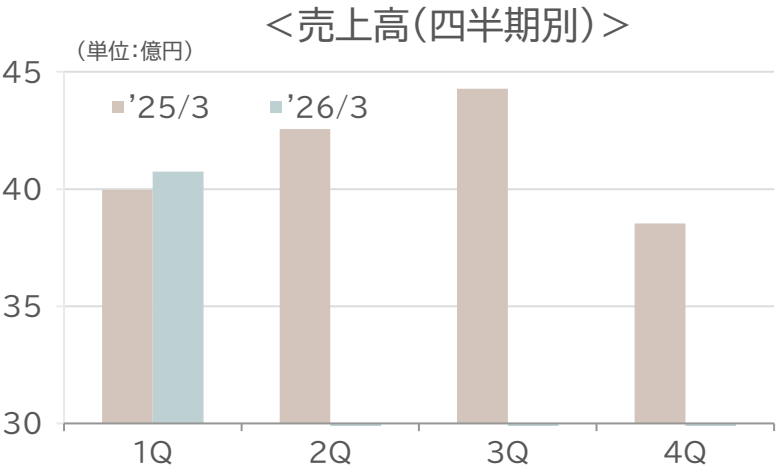
(単位:億円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	35	31	▲4	▲12.6
営業利益	2	0	▲2	▲91.9



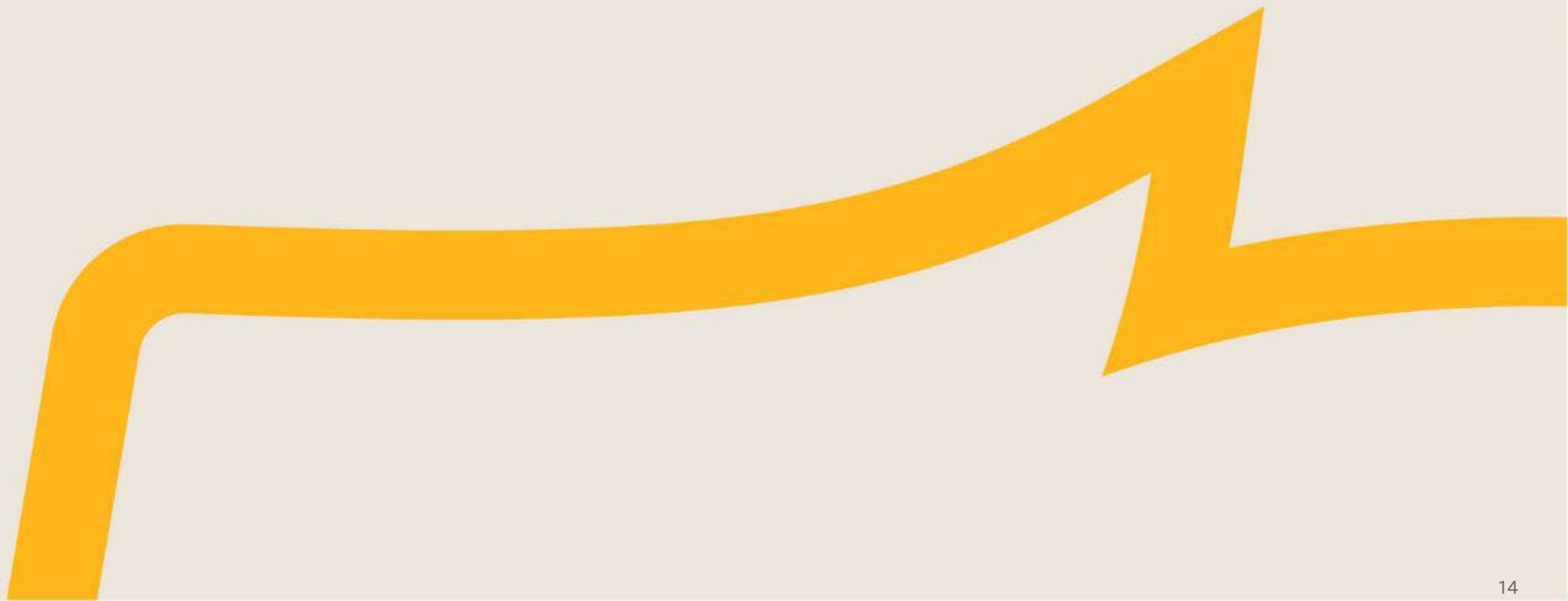
2026年3月期第1四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

人員増・賃金改定等による人件費の増加や電力料の上昇により減益。

(単位:億円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	39	40	0	1.9
営業利益	6	5	▲0	▲14.3



## 今後の見通し・取り組み



## 2026年3月期 計画(再掲) サマリー

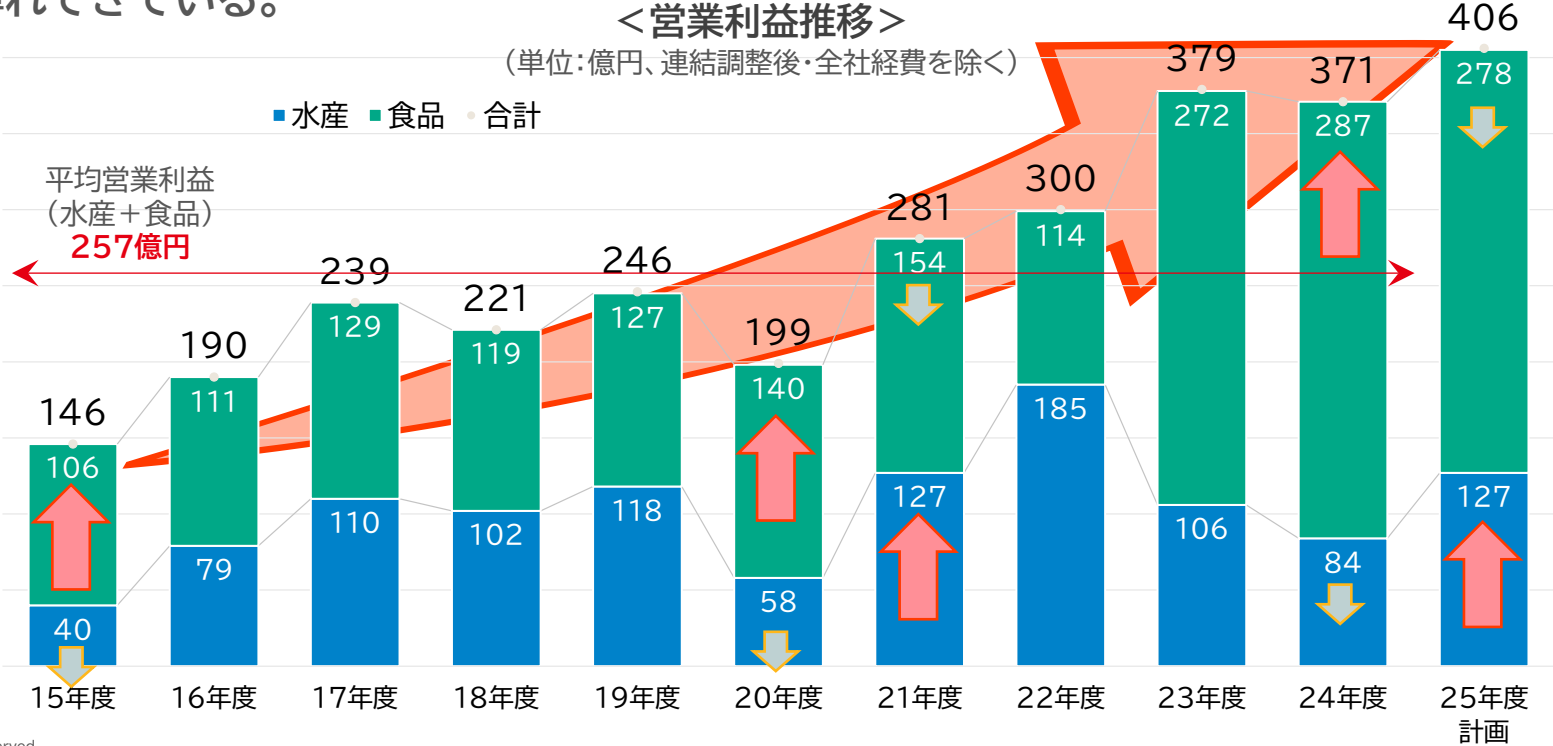
Recipe2の戦略として掲げた、海外事業の成長・養殖事業の高度化・不採算事業のターンアラウンドが想定通りに進み、計画を上回るペース。

	2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	対前期比 増減	増減率(%)
売上高	8,861 億円	9,000 億円	138 億円	1.6
営業利益	317 億円	345 億円	27 億円	8.6
経常利益	353 億円	355 億円	1 億円	0.6
当期 純利益	253 億円	250 億円	▲ 3 億円	▲ 1.5

2025年3月期 第1四半期	
実績	進捗率(%)
2,254 億円	25.1
102 億円	29.8
102 億円	28.9
65 億円	26.0

# 水産事業と食品事業の営業利益推移

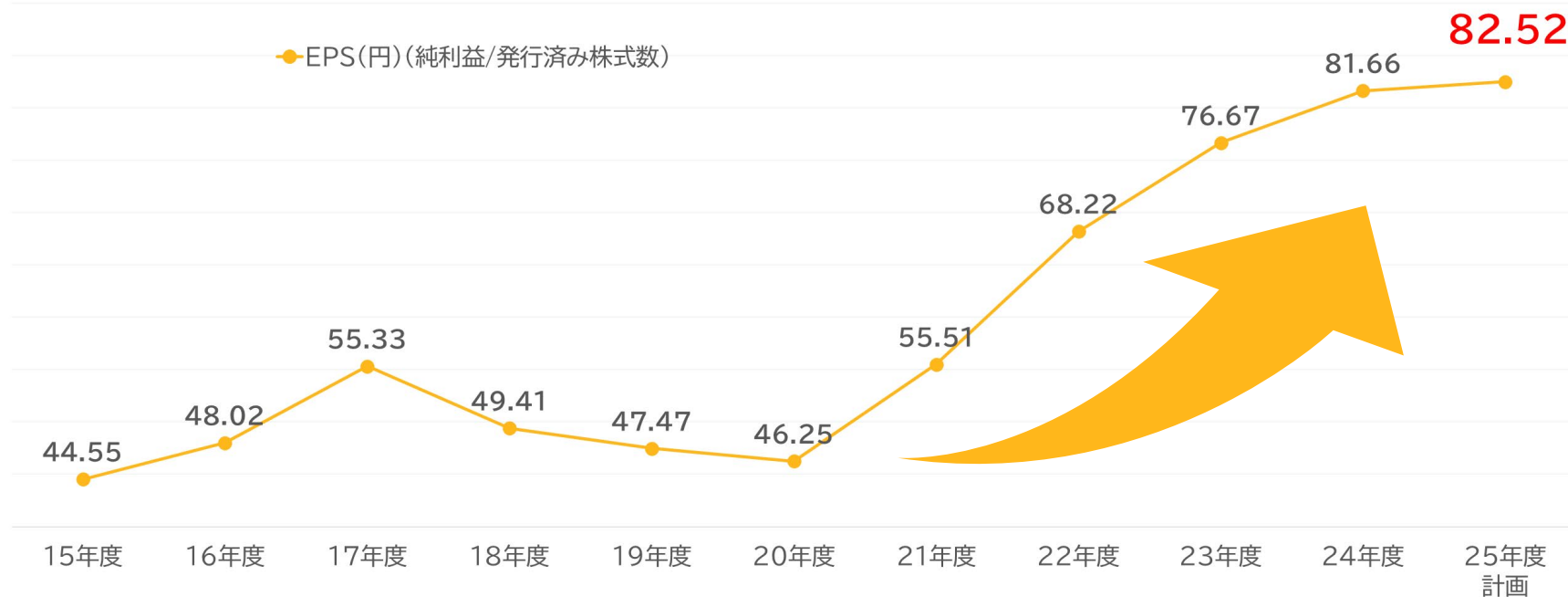
ここ数年の水産・食品合計の営業利益は10年間平均を100億円上回る水準にまで拡大。  
水産の食材化も進み水産・食品の垣根が低くなり、水産と食品を区分して議論する意義も薄れてきている。





## EPSの推移

水産・食品事業間のシナジー効果が奏功し、当期純利益も着実に改善。EPSは昨年まで4期連続最高を更新。自己株式取得を実施したこともあり2025年度も更新する計画。



\*自己株式取得  
の効果反映後

# 今後の見通し・取り組み：水産事業(養殖)

養殖事業の更なる拡大のため、養殖場拡大と種苗強化に注力。

## ▶ 養殖場拡大による事業規模の増大

ー(ブリ・鮭鱒)ギンザケは、養殖エリアの分散による事業拡大とリスクヘッジを推進。ブリは、大型生簀への転換を加速し、水揚げ数量拡大と効率化を促進。

(ギンザケ)岩手県を  
中心に拠点を拡大



(ブリ)従来の18倍の生簀容積  
で集約による効率化を図る

## ▶ 飼料価格低減による収益性の改善

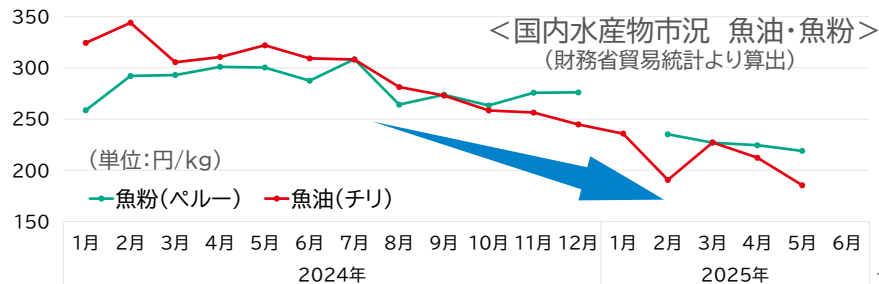
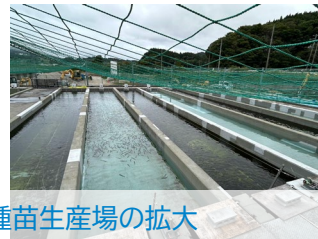
ー 昨年末より魚油・ミール市況の高騰に落ち着きが見られる。  
今後水揚げされる養殖魚のコスト低減に繋がる。

## ▶ 種苗生産能力の増強による養殖成績改善

ー(ブリ・鮭鱒)成長促進・高温耐性化、成魚になった時の魚病リスク低減などの種苗強化により、養殖成績の改善を図り、生産性向上・生産拡大を実現する。



(ギンザケ)種苗生産場の拡大



## 北米水産加工事業の収益改善が進んでいる。

### ▶ 収益構造の見直しによる事業変革

ーフィレ生産比率の向上による収益改善

- ・ すりみと比較して価格が高値安定しているフィレの生産比率を約10%高める。

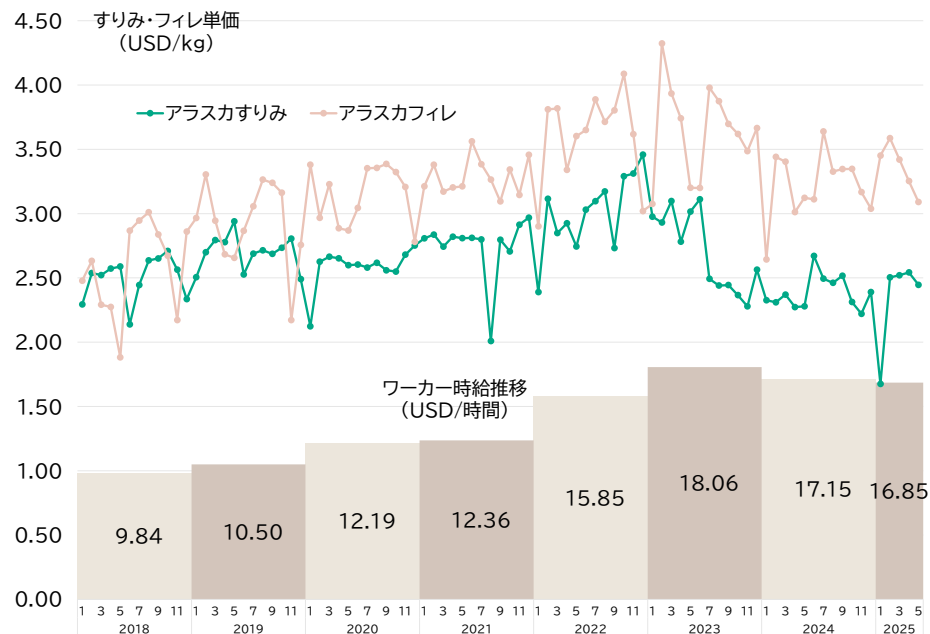
ー漁船との協働体制強化

- ・ 効率的な原料搬送体制によって、適切なタイミングでの原料調達を実現し、スケソウダラ原料の品質安定による製品価値アップに貢献。

ーコスト抑制

- ・ 効率的な工場稼働や人員配置により労働コストの削減に取り組む。

### <北米すりみ・フィレ輸出統計とワーカー時給推移>



## 今後の見通し・取り組み： 食品事業(海外)

伸長する海外事業に積極投資を計画しており、予定通りに進捗。

### ▶ (欧州・北米)生産能力の増強と効率化による物流コスト削減

#### < 欧州 >

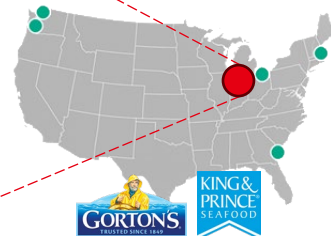


- 一 建屋は完成。2026年前半からの稼働を目指し、ライン増設などを進めている。
- 一 生産能力拡張、自動化、配送の効率化で収益力を強化。

#### < 北米 >



- 一 冷蔵倉庫と隣接させ、配送コストを削減、物流効率化を推進。
- 一 2025年9月の生産開始予定。



< 米国生産拠点 >

## 今後の見通し・取り組み：食品事業(日本)

個食・簡便・健康に対応した商品を展開し、お客さまのニーズに応えていく。

▶ 個食・簡便・健康など消費者ニーズに対応した差別化商品の展開(25年秋冬新商品)

### 個食・簡便

電子レンジ調理で簡単に喫食できる冷凍食品

<ワンプレート冷凍弁当>



<夕食惣菜>



凍ったまま調理  
ふっくら切身

### 健康

冷蔵温度帯売場向け  
夕食惣菜

一般的なチルド食品と  
比較して賞味期限が長い



ワンハンドで食べられる  
バータイプ商品



今後の見通し・取り組み： 国内新工場建設(福岡県北九州市) ※2026年12月竣工予定

技術革新と生産機能の拡充により、冷凍食品を中心に特色のあるカテゴリーを強化する。

- ▶ 今後の国内食品工場の基本思想「ニッスイスマートファクトリー(※)」のモデル工場を目指す  
(※)モノづくりを通じて経済・環境・社会・人財・の4つの価値を創造してニッスイの企業価値を高める工場

#### 課題

顧客ニーズ・  
戦略カテゴリー強化  
への対応

冷食工場の焼失  
生産キャパシティ不足

工場老朽化

- 取り組み
- ー 生産集約による開発力強化・生産効率化
  - ー AIなどの最先端技術を活用した生産最適化・人財確保・環境負荷低減による人と地球にやさしい生産現場を実現

➡ 中長期的な価値創造に向けた  
個食・簡便・健康ニーズに応える生産体制の構築

\*戸畑工場・北九州ニッスイ第二工場は移管後閉鎖予定





## 日本・欧州・アジアで医薬品向け高純度EPAの販売を拡大していく。

### アマリン社の欧州展開状況

販売中：10ヶ国  
他、取組中

### 欧州への 販売機会拡大

#### 欧州

2025年6月に当社の既存顧客であるアマリン社が、心血管系疾患領域の医薬品販売に強い販売会社(レコルダティ社)と独占ライセンス・供給契約締結。拡大のスピードが速まる事が期待できる。

#### アジア

高純度EPA医薬品 市場の動向	持田製薬	アマリン社
タイ	販売中	取組中
中国	取組中	販売中
ベトナム	販売準備中	取組中
ASEAN・韓国	取組中	取組中
台湾	取組中	—

販売承認について

●：販売中


●：取組中

#### 日本

持田製薬の新剤型拡大と  
AG(※)発売に期待。

### 日本市場 シェア奪回

AG(※)：オーソライズドジェネリック  
→先発医薬品メーカーから許諾を得て  
製造・販売されるジェネリック医薬品



バリューチェーン強靱化を通じ、  
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に  
お届けするリーディングカンパニー  
(GOOD FOODS 2030)」  
達成に向けて取り組んでまいります。



## 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



**まだ見ぬ、食の力を。**

株式会社ニッスイ

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課

03-6206-7037

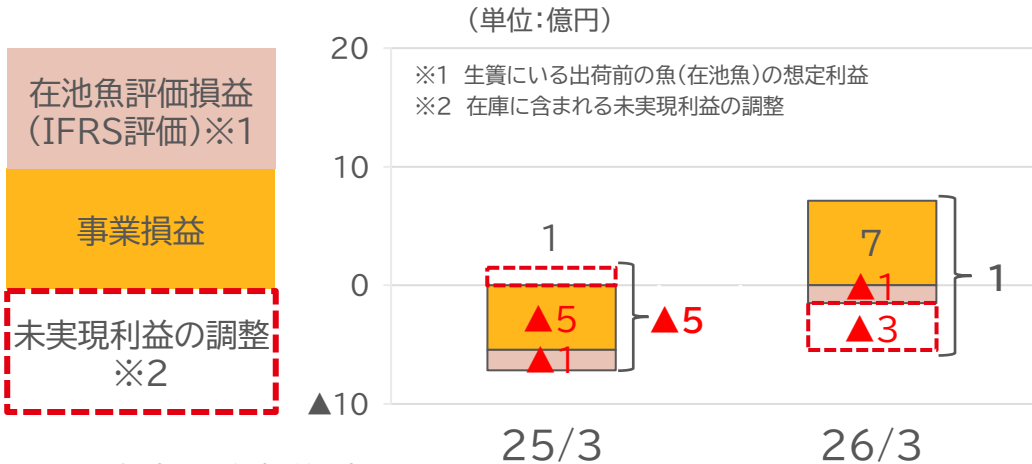
<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

## 参考資料



# 2026年3月期第1四半期 南米鮭鱒養殖について

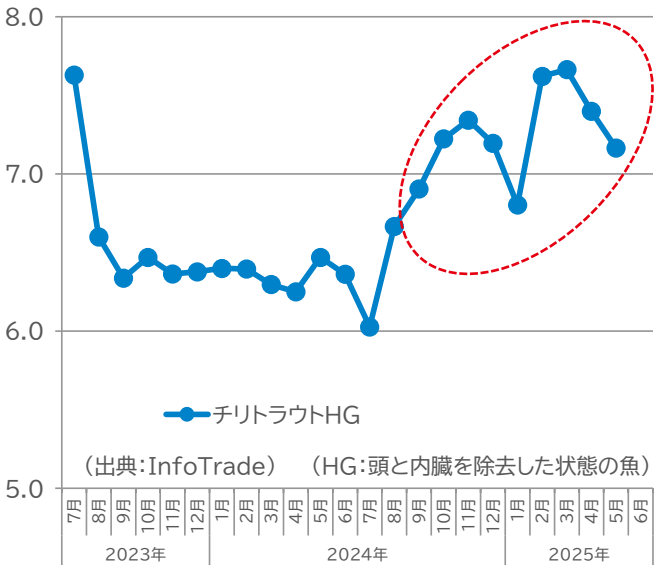
在池魚評価損益は影響なし。



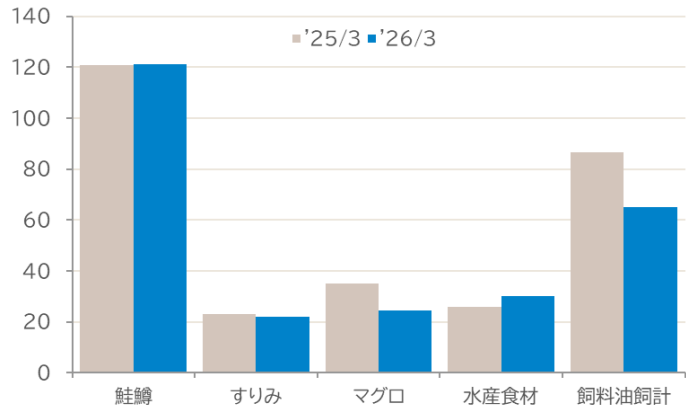
<在池魚評価損益 内訳>

(単位:億円)	25/3 1Q	26/3 1Q
期首戻入額	22	▲3
期末評価損益	▲23	2
在池魚評価損益	▲1	▲1

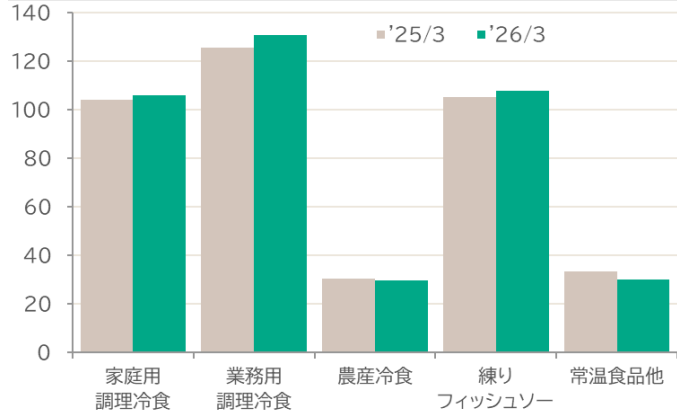
<チリ産トラウトHG相場推移>  
(単位:USD/kg)



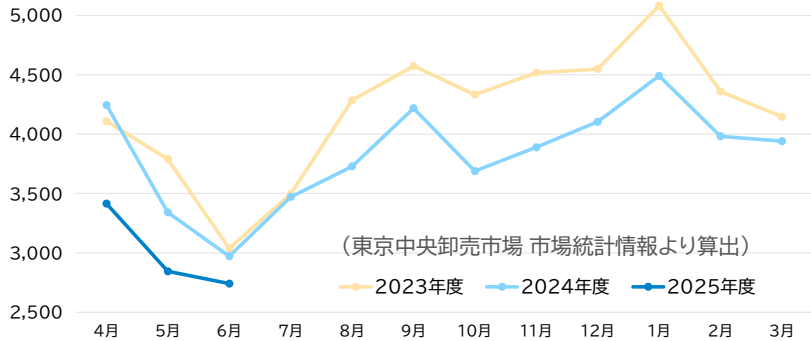
水産個別 主要魚種別売上高 (単位:億円)



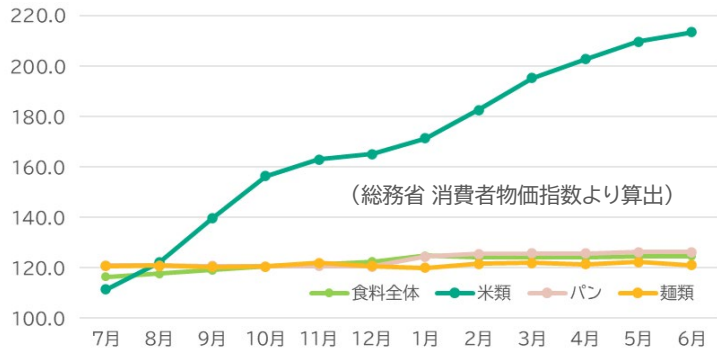
食品個別 カテゴリー別売上高 (単位:億円)



国内水産物市況 生鮮マグロ (単位:円/kg)



食料価格の推移(米類・パン・麺類) (指数:2020年=100)



## 2026年3月期第1四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位: 億円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	増減	主な増減要因
売上高	2,206	2,254	48	
売上総利益	358	377	18	
販売費・一般管理費	261	274	13	
営業利益	97	102	5	
営業外収益	27	8	▲18	持分法による投資利益▲16、為替差益▲2
営業外費用	8	8	0	
経常利益	116	102	▲13	
特別利益	0	0	▲0	
特別損失	5	3	▲1	
税金等調整前四半期純利益	111	99	▲12	
法人税等	25	25	▲0	
法人税等調整額	9	4	▲4	
四半期純利益	76	70	▲6	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	3	5	1	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73	65	▲8	

2026年3月期第1四半期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート（連結調整前）

主要在外会社の 為替換算レート	2025年3月期 第1四半期		2026年3月期 第1四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	410	617	438	663	28	46	42	4
EUR(百万ユーロ)	112	183	117	187	4	4	8	▲3
DKK(百万クローネ)	780	170	878	187	97	17	21	▲4
その他通貨	—	101	—	105	—	4	3	1
計		1,072		1,144		71	74	▲2

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは  
第1四半期の平均

	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	変動率
米ドル(USD)	150.21 円	151.21 円	0.7%
ユーロ(EUR)	162.65 円	159.35 円	▲2.0%
デンマーククローネ (DKK)	21.85 円	21.36 円	▲2.2%

# 2026年3月期第1四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	589 (▲26)	222 (49)	106 (14)	217 (19)	17 (0)	1,153 (55)	▲289 (▲47)	864 (9)
	615	173	92	198	17	1,098	▲242	855
食品事業	799 (57)	334 (▲16)		214 (3)	31 (3)	1,380 (48)	▲93 (13)	1,287 (61)
	742	350		211	28	1,332	▲106	1,226
ファイン 事業	37 (▲5)					37 (▲5)	▲6 (1)	31 (▲4)
	42					42	▲7	35
物流事業	81 (4)					81 (4)	▲40 (▲3)	40 (1)
	77					77	▲37	39
その他 事業	52 (▲3)				0 (0)	53 (▲3)	▲21 (▲14)	31 (▲17)
	55				0	56	▲7	48
仮計	1,560 (25)	556 (33)	106 (14)	432 (23)	49 (3)	2,705 (97)		
	1,535	523	92	409	46	2,608		
連結調整	▲262 (▲4)	▲76 (▲25)	▲75 (▲15)	▲3 (▲2)	▲31 (▲1)		▲450 (▲49)	
	▲257	▲51	▲60	▲1	▲30		▲401	
連結 計	1,298 (21)	479 (7)	30 (▲2)	428 (20)	17 (2)			2,254 (48)
	1,277	472	32	408	15			2,206

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

2026年3月期第1四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	21 (▲3)	18 (13)	3 (12)	6 (1)	0 (▲0)		50 (22)	▲19 (▲11)	31 (11)	3.6 (1.3)
	25	4	▲8	5	0		27	▲7	20	2.3
食品事業	41 (▲5)	24 (0)		21 (5)	1 (▲0)		89 (▲0)	▲1 (0)	88 (0)	6.8 (▲0.3)
	46	23		15	2		89	▲1	87	7.1
ファイン 事業	0 (▲2)						0 (▲2)	▲0 (▲0)	0 (▲2)	0.6 (▲7.1)
	2						2	▲0	2	7.7
物流事業	5 (▲0)						5 (▲0)	0 (0)	5 (▲0)	14.0 (▲2.7)
	6						6	0	6	16.4
その他 事業	1 (0)				0 (0)		1 (0)	▲0 (▲1)	0 (▲1)	1.6 (▲1.7)
	0				0		0	0	1	3.4
全社経費						▲23 (▲2)	▲23 (▲2)	0 (0)	▲23 (▲1)	
						▲21	▲21	0	▲21	
仮計	70 (▲12)	42 (14)	3 (12)	27 (6)	2 (▲1)	▲23 (▲2)	124 (18)			
	82	28	▲8	21	3	▲21	105			
連結調整	▲5 (▲3)	▲9 (▲3)	▲4 (▲5)	▲1 (0)	▲0 (0)	0 (▲0)		▲21 (▲12)		
	▲1	▲5	1	▲1	▲1	0		▲8		
連結 計	65 (▲15)	33 (10)	▲0 (6)	26 (6)	1 (▲0)	▲23 (▲2)			102 (5)	4.6 (0.2)
	80	22	▲7	19	2	▲21			97	4.4

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

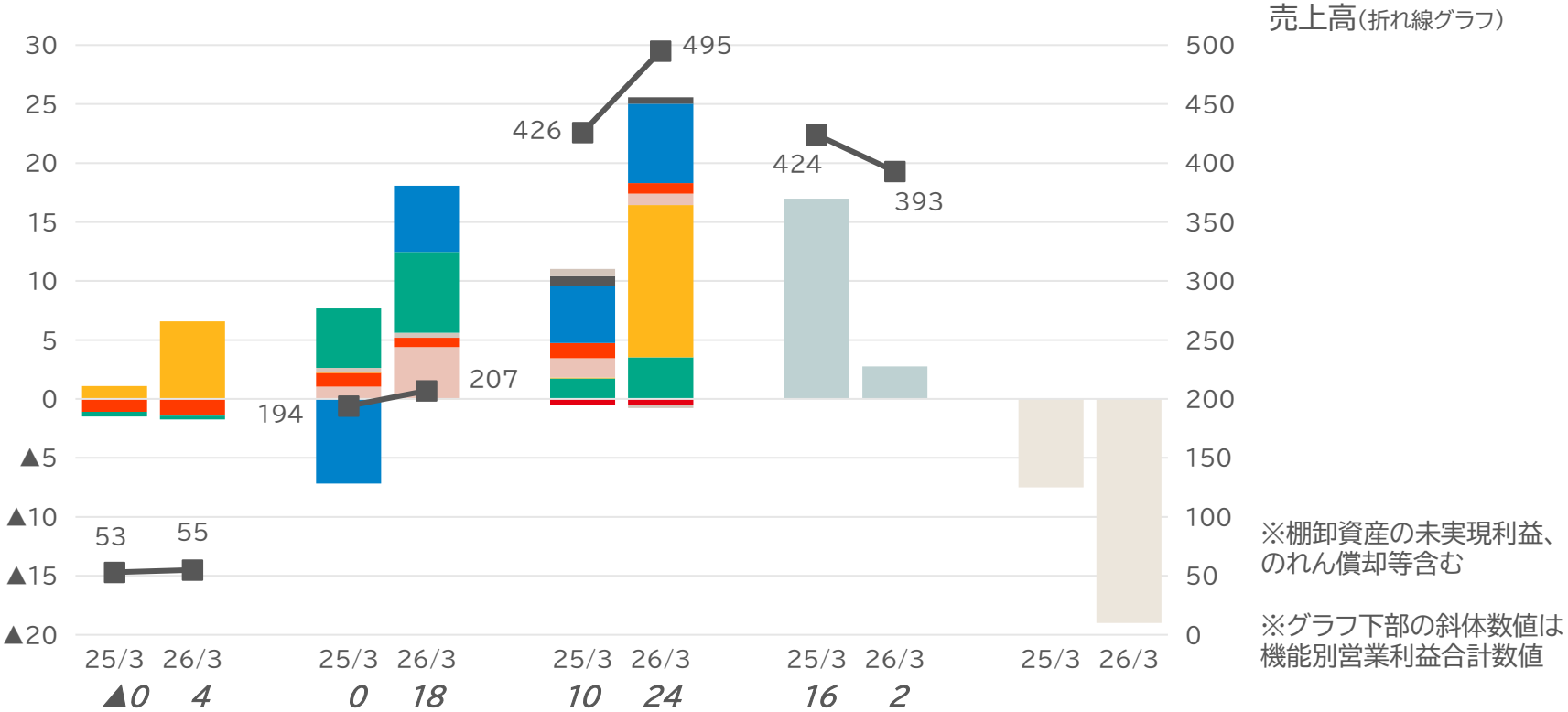
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。



# 2026年3月期第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

- 漁業
- 養殖
- 加工・商事
- ニッスイ個別
- 連結調整



# 2026年3月期第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

加工

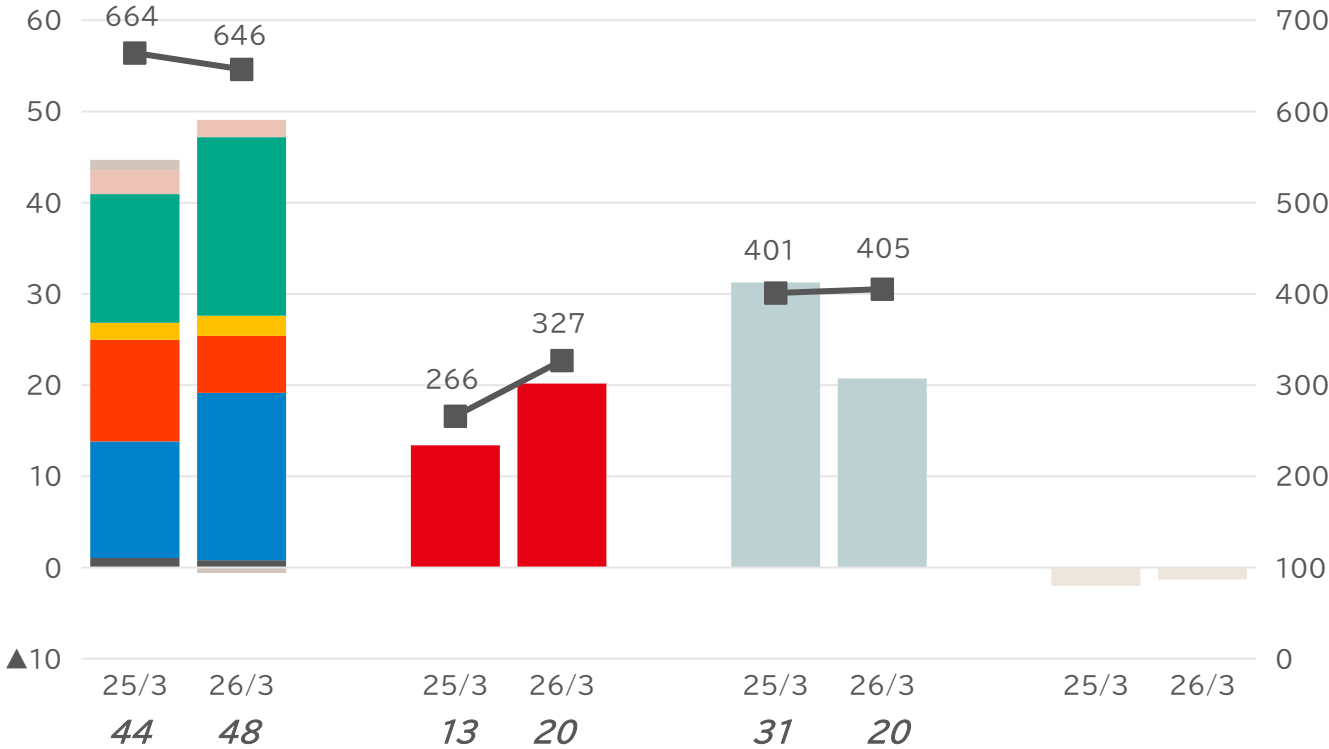
チルド

ニッスイ個別

連結調整

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)



※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値



まだ見ぬ、食の力を。